２０２３年度　群馬大学共同教育学部
学校推薦型選抜・帰国生選抜問題

特別支援教育専攻

小論文

注意事項

1．試験開始の合図があるまで，この問題用紙を開いてはいけません。
2．問題用紙は表紙を含め３枚，解答用紙は２枚，下書用紙は２枚です。落丁，乱丁，印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
3．受験番号と氏名は全ての解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4．解答は指定の解答用紙に記入してください。
5．解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6．問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

特別支援教育専攻 小論文

問1　下線部分の記述は、著者の学問（心理学）のあり方に対する問題提起です。あなたは、この問題提起に倣った場合、大学に入学して学問に触れる者として「うちのポチは絶対ことばがわかる」という飼い主の主張に対してどのように向き合い、何を明らかにすべきだと考えますか。（600字以内）

犬や猫などのペットを長い間飼っていると、しだいに情が移り、そのペットの「表情」を見ただけで何を考えているのか、どう感じているのか、察することができるようになる（気がする）ことがある。これは誰でもある程度は経験することだが、とりわけ身寄りのない老人や、孤独なひとり暮らしなどの身の上には、よく起こることだろう。

そのような場合、人はペットの「感情」の表現に対して、ほかの人に対するのと同じように語りかけ、愛撫する。すると動物の方でも、そうした「感情」の表現をいっそう強く示すことによって応答できるようになり、それがさらに人の側の反応へとフィードバックされる。

人がしばしば「うちのポチは絶対ことばがわかる」などと言い張ったりするのは、こうした緊密なダイナミクスの結果であるように思われる。

ここで認めておかなくてはならないのは、客観的にはどうであれ、人と動物の間にはある種の情動的なリアリティ（心の交流）が完全に成り立っているということである。

何らかの「科学的」証拠を突きつけて、この情動的リアリティをくつがえすなどということが、そもそも可能だろうか？　私には不可能と思われる。

またたとえ他人から見て、動物のふるまいが単なる条件づけの域を出ないものだったとしても、飼い主よりこの他人の見方の方に優先権を与える理由は、見当たらない。飼い主と動物との間の固有の愛情関係は、いずれにせよ「条件づけ」的な見方の上には成り立つ性質のものではないのだから。

情動的リアリティは、はじめから科学言語のレベルとはちがうヒューマンなレベル、日常生活のレベルで成り立っている。かりに、実験でのペットの意外におろかな、あるいは「動物じみた」行動を見て、飼い主がそのペットへの気持ちを変えたとしても、それは依然として科学的「実在」の地平での出来事ではなく、ヒューマンなリアリティのレベルでの出来事なのだ。

<u>この発見の提起している問題は重大である。それは、客観的、科学的な「実在（事実）」のみを追求の対象とし、また同時にそれを世界観の基底ともするタイプの心理学の発想に対して、疑問を投げかけているのだ。</u>

出典：まなざしの誕生　赤ちゃん学革命〈新装版〉，下條信輔，新曜社，2006，pp. 339-340.
（出題にあたり一部改変）

特別支援教育専攻 小論文

問 2 あなたが中学校の教員であったとします。以下の文章を読んだ上で、生徒が「自分を見失う」ことなく、自分と向き合う機会を与えるために、生徒にどのように関わるか、あなたの考えを述べてください。（600 字以内）

自分と向き合う機会が少ないと、必然的に自己に関する情報は外部情報に偏ることになります。先生や親からの評価やクラスメートからの評価、SNS での評価。こうした第三者による評価はポジティブな作用をもたらすこともあるので一概に悪いわけではありませんが、「自分ってこうだよな」と内省をする暇もなく「あんたってこうだよね」という情報ばかり浴び続けていれば、それが脳のなかでの唯一の「自分の情報」になってしまうことは十分ありうる話なのです。

相田みつをさんの言葉で私が好きな次の名言があります。

「他人の物差し、自分の物差し、それぞれ寸法が違うんだな」

まさにその通りで、他人の物差しで自分を知ることは大切な情報ではあるものの、自分の物差しで自分を見ることもできるのが人間なのです。

外部評価に依存する形で自己が形成されていくと、結果的に周囲の意見に流されたり、人から何を言われるかを気にしすぎて積極的に行動が起こせない脳になってしまいます。非常に不安定な状態であり、それをこじらせると「自分を見失う」ということにもなりかねません。

出典：最新の脳研究でわかった！ 自律する子の育て方，工藤勇一・青砥瑞人，SB クリエイティブ，2021，pp. 157-158.